

(社)日本原子力学会
第31回倫理委員会議事要旨

日時 H19.3.27(火)15:00~17:20
場所 名古屋大学工学部7号館714室
出席者 北村、大場、班目、安濃田、鐘ヶ江、作田、谷、鳥飼、中安、萩原、矢野
(11名)

配布資料

資料31-1 第30回倫理委員会議事要旨(案)
資料31-2 行動の手引/用語集の論点
参考資料31-1 原子力部門が取り組む再発防止対策(案)(東京電力)

議事

1. 資料31-1の前回議事要旨を確認した。
2. 班目幹事より資料31-2を用いて倫理規程改訂における論点の報告があった。用語集については、現在説明文のない用語を入れるという提案も受け付けるが、その場合は説明文の提案もしていただくこととした。環境関係の行動の手引の条文に関しては、原子力は本当に地球温暖化防止に有効なのか、環境問題解決の一助になりうるのかといった意見交換の後、

<地球環境保護との調和>

1-5. 会員は、原子力利用は炭酸ガス排出の低減などで環境問題の解決の一助となりうる一方、放射性廃棄物の発生などが将来の人類と生物圏への負の遺産となりうることも認識し、地球環境保護との調和を常に心がける。

を基本に、さらに検討することとなった。また労働安全関係の行動の手引の条文は、労働安全は公衆安全のためにも基本であるが、場合によっては従事者は危険を冒しても公衆の安全を守る義務があるのではないかと、設備の健全性は労働安全確保だけでなく公衆安全の基本ではないかといった意見交換の後、

会員は、常に原子力施設で働く人々の安全確保と設備の健全性に注意を払い、災害の防止に努める。

を基本に、さらに検討することとした。今後の作業として、5月中には倫理規程の改訂案を確定し2ヶ月間以上の公衆審査に掛ける方針を了承した。また、寄せられた意見への回答案についてもアンケートによる検討を続けることを確認した。

3. 大場副委員長より、ホームページの改訂作業が進んでいる旨の報告があった。
4. 美浜事故に対する見解のフォローアップとしての現地調査は、東電問題のフォローアップの場合とほぼ同様な形を考えるが、そのほかにもいろいろな可能性を探りつつ実施することとした。

- 5 . 2007 年春の年会委員会合同セッションのフォローアップは、委員会合同のワーキンググループでの検討が進むことを確認していくこととした。セッション内容については安濃田委員が報告執筆を担当することとした。なお、倫理委員会の活動をさらに積極的に学会誌等に投稿していくことを申し合わせた。
- 6 . 参考資料 31 - 1 を用いて、谷委員より最近発見された問題事例への東京電力の対応状況についての説明があった。委員会としてその努力をさらに見守っていくこととした。関連して、多くの事例について報道等では一緒に扱われる傾向があるが、安全面・組織面・倫理面等、またその後の改善努力がなされているかどうか等のいくつかの評価軸に照らして問題の重さを中立的な機関等できちんと評価し、発信することが必要との発言があった。
- 7 . 4 月ないし 5 月に理事会運営ボードに倫理委員会から出席して欲しいとの要請があり、可能な委員が対応することとした。
- 8 . 次回は 5 月 21 日の 13 時半から学会で開催することとした。